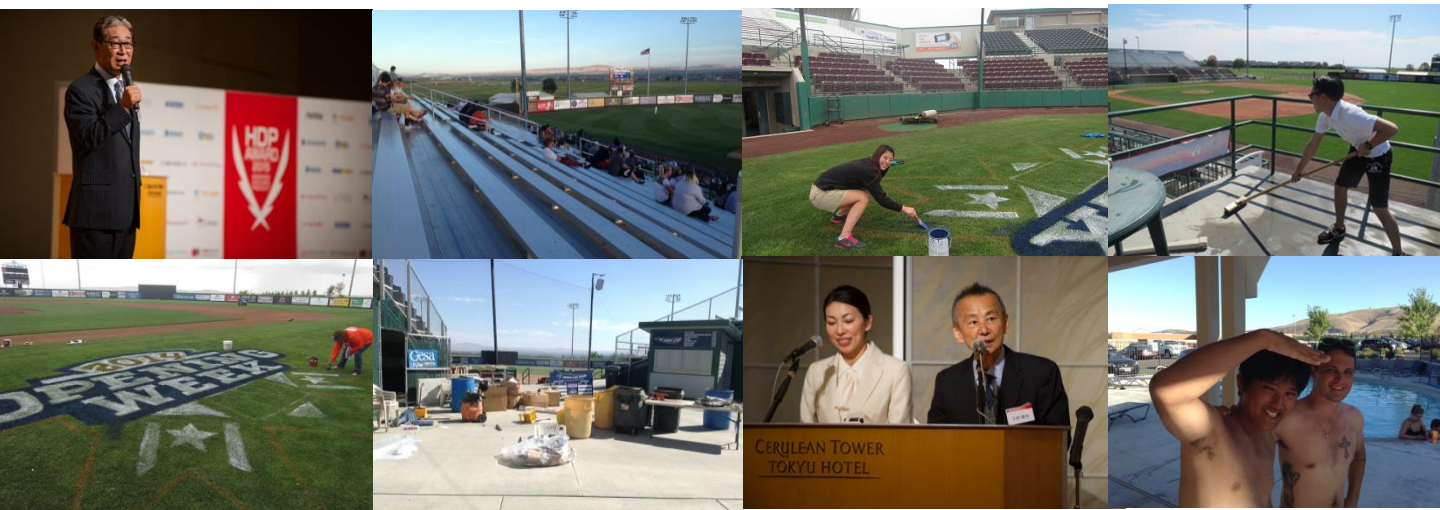




本気の若者を、本気で応援する。

HDP AWARD

第5回ホシノドリームズプロジェクトアワード



第五回HDPアワードを開催いたしました。今回は、パッションリーダーズ～情熱経済人交流会～との合同イベントとなり、約200名の経営者の皆様と共にイベントを盛り上げることができました。

HDP年間活動の集大成の場であり、発起人である星野チェアマンと支援した若者たち・協賛スポンサー様との交流の場も設け、情熱あふれる一日となりました。





星野チェアマン講演～HDPアワード開会

■ 星野チェアマン講演

第五回HDPアワードは、日本一の経営者団体であるパッションリーダーズと合同で実施いたしました。通常のHDPアワードの前に、HDPスポンサー企業様とパッションリーダーズの会員様に向けて、星野チェアマンの講演からスタートいたしました。監督引退後は講演依頼が殺到し、めったに引き受けないそうですが、HDPのためならばと講演にご快諾いただきました。震災後、東北の期待を一身に背負って見事優勝を勝ち取った、日本一の胸上げシーンの映像とともにステージに登場。野球人生を通じて人間をしっかり見据えた考え方、教育、人間として本気の付き合い方、ジョークも交えて楽しくお話いただきました。中日、阪神、楽天と3球団を優勝に導いた輝かしい実績を残した名監督。しかし「引き受ける球団はいつも下の方の成績、若いヤツは特に野球選手としてだけでなく人間を強くすることを考えてきた。選手と真剣に向き合う。だから、本気で怒るよ。」勝利の秘訣は教育にあり。選手を叱ると同時に“情”の厚さもすごい。そういう監督だから、自然と人の輪ができる。経営者も同じく、会社の業績を上げ社員の士気を高め、上司部下の躰、社員ひとり一人の能力を高めていかなければ生き残る強い組織にはなれない。みなさんからの拍手と羨望の視線を浴びて、間近で見る星野監督は大きな体と声量で誰もが頼れるリーダー像そのものでした。星野監督、本当に素敵な「人間愛」のお話をありがとうございました。



■ HDP活動報告（物資支援・少年野球世界大会など）

<p>募集ポスター</p>	<p>カル・リプケン少年野球世界大会出場</p> <p>これまでの日本チームの戦績： 2011年 優勝 2012年 優勝 2連覇!! 2013年 優勝 3連覇!!! 2014年 準優勝</p> <p>2011-2013世界大会 3連覇 2014世界大会 準優勝</p>	<p>スポーツ環境整備</p> <p>「倉庫に眠った宝物を、子供たちへ！」</p>	<p>HDPの協力体制</p> <p>スポーツ界、スポンサー企業、学校・教育機関が連携して、若者支援活動を行っています。</p>
<p>世界を目指す 若きアスリート 本場アメリカで学ぶ インターンシップ生を 大募集!</p>			



インターンシップ 修了証授与

■ インターンシップ活動報告



[参加者] 7期生:小川由唯花、中村和貴

■ インターン代表 小川由唯花さんからの挨拶



本日は、大変お忙しい中、貴重なお時間を割いてお集まりいただきました皆様に、心よりお礼を申し上げます。僭越ながら、HDPインターン第7期生代表として、ご挨拶をさせていただきます。

現地では、スタジアム中の掃除から始まり、毎イニング間に行われるプロモーションイベントの手伝い、ゲートでのチケットもぎり、ピーナッツ売り子、時にはプレスボックスでスコアを書かせて頂くなど、様々な仕事をやらせて頂きました。仕事を通し、多くの人と出会い、アメリカのスポーツビジネスや実用的な英語を学び、日本では感じることもできなかったであろうことも経験することができました。

このインターンシップを通して得たものは他にもたくさんありますが、その中でも私にとって一番の収穫になったものは、自分の夢に対して自信を持つことができたということです。球団職員になりたいという私の夢は間違っていなかったと、心からそう思うことができました。働く人も、ファンの人も、球場に来るみんなが笑顔になれる、それがスポーツの魅力であると実感し、そしてそのスポーツの魅力を最大限に引き出すことができる球団職員こそが自分の最も目指したいものであると改めて思いました。体力的に辛いことは多々ありましたが、それでも毎日笑顔で働くことができたことも大きな自信となりました。

アメリカの野球と日本の野球、メジャーリーグとマイナーリーグではもちろん大きく違いますが、それでも、それぞれが目指すべきスポーツビジネスの理想の形を、ダストデビルズで学ぶことができたと思います。このインターンシップでの経験は、間違いなく私の中で確固たる軸となると思います。また、将来的にはこのインターンシップを通して経験したこと・感じたことを活かし、これからの日本の野球界の発展に貢献できたらと思っています。

最後になりますが、このような素晴らしい経験をさせて頂いたのも、星野チェアマンを始め、HDP事務局の皆様、そして何よりもスポンサーの皆様のごサポートあってこそだと思います。HDPはスポーツを志す若者にとって、とても重要なプロジェクトだと実感しましたので、今後ともHDPへのご声援を宜しくお願い致します。今一度、この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。本当に有難うございました。



ドリームサポート 授賞式

■ 受賞者の発表と賞状・記念品授与



ウェイトリフティング 木下竜之さん



陸上競技(聴覚障害)高田祐士さん



陸上競技(全盲クラス)高田千明さん

■ 受賞者代表 高田祐士さんからの挨拶



2020年オリンピック・パラリンピック開催が決定し、今現在日本国内におけるパラリンピックの知名度は、95%以上とほぼオリンピックと同程度の知名度であります。デフリンピックは約3%とほとんどの人が知らないという状況です。すべてのスポーツの中でもとりわけマイナーな世界になります。マイナーで厳しい環境にいますが、HDP、スポンサー企業の皆様のおかげで、2012年世界選手権銅メダル獲得、2013年デフリンピックで2種目入賞、厚生労働大臣賞受賞、そして天皇皇后両陛下会越の機会を賜る、など様々な結果をこの数年で残すことができました。これもすべて、皆様の暖かいご支援のお陰です。本当にありがとうございます。

また、今年の10月に台湾で聴覚障害者のアジア大会が開催します。専門種目の400mハードルでアジアチャンピオンというタイトルを手にして、2017年デフリンピックでのメダル獲得に向けて、ステップアップしていけるように頑張ります。

これまでの暖かいご支援を通して、私が学んだこと。それは日本人としての「仁」、
「人思いやる心・仁の精神」、そして感謝の気持ちというものを学ばせていただきました。

「マイナー競技で培ってきたハングリー精神」、「日本人としての仁の精神」、「そしてHDPならびにスポンサー企業様への感謝の気持ち」、この3つの精神・気持ちを忘れずに、今後も精進してまいります。

今後とも暖かいご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。
ありがとうございました。



懇親会・総括

■ 記念撮影



■ 懇親会

星野チェアマンとスポンサー様の写真撮影後、(株)三邦・代表取締役社長・山本雅之様より、乾杯のご発声をいただきました。



■ 閉会・総括



一年ぶりに皆さんにお会いしましたが、いつもHDPを後押ししていただきましてありがとうございます。私は昨年でユニフォームを脱ぎましたが、本当はまだまだやりたかったんです。遠征というも含めて、まだ腰も万全ではないんです。次はシニアアドバイザーということですけども、ある意味、このスポーツで強くなるというHDPの活動に本腰を入れてやれる時間ができました。皆さんの長年のご協力に大変感謝しております。

いずれにしても野球で生まれ育った男ですから、スポーツそのものは全て好きですから、スポーツの世界でいろいろな意味でしっかりとバックアップしていこうという思いで、今年から第三・第四の人生か分かりませんが、死ぬまで皆さんとかかわって仲間として頑張って行こうと考えております。

HDPを支えていただいてまして、本当にありがとうございます。